



盲ろう者のアクティビティ

目と耳に障害がある人のための活動プログラム

認定NPO法人 東京盲ろう者友の会

目と耳に障害がある人のための活動プログラム



Activity
for **the Deafblind**
盲ろう者のアクティビティ

本書について

目と耳の両方に障害のある「盲ろう者」は、その障害ゆえに他者とのコミュニケーションが難しく、外出する機会も限られています。そのような盲ろう者こそ、毎日のように日中活動系のサービスを利用することが必要になりますが、多くの盲ろう者は十分に参加できていない状況にあります。

その背景には、盲ろう者の支援にあたるスタッフにノウハウが共有されていないということがあげられます。その結果、サービスを利用した盲ろう者の中には「何もせずにただ椅子に座らせられるだけでつまらなかった」、「周りは楽しそうにしているけれども、自分は楽しめず寂しい思いをした」といった思いを持つ人も少なくありません。

これらの状況を踏まえ、当会では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、視聴覚に依存しない日中活動（生産活動、創作活動、レクリエーション活動）を企画・実施しました。そして、盲ろう者や支援者などからの意見を参考にし、盲ろう者に適した活動プログラムを本書にまとめました。

本書を通じて、盲ろう者が楽しめる活動の内容やそれらを提供するうえでの配慮についてのノウハウを参考にさせていただき、盲ろう者が地域で行われる日中活動に楽しんで参加できるようになることを願っています。

Contents

本書について 1

Who are the Deafblinds ?

盲ろう者を知っていますか？

盲ろう者とは 6

コミュニケーション方法 8

活動に参加するうえでの配慮 12

利用できるサービス 14

Activity for the Deafblind

盲ろう者のアクティビティ

創作活動 18

生産活動 50

レクリエーション 82

創作活動

Art and Handicraft

18	石けん	34	和紙はがき
22	ふきん	38	布ぞうり
26	もこもこハンガー	42	革の手帳ケース
30	コルク細工	46	手織り

生産活動

Light Work

50	箱折り	66	手紙封入
54	裂き布	70	封筒
58	エンボス加工	74	木製クリップ
62	包装	78	点字名刺

レクリエーション

Recreation

82	カラダほぐし体操	90	バランスボール
86	アロマ&てもみ	94	じゃんけんゲーム

Activity for the Deafblind



「盲ろう者」を

知っていますか？

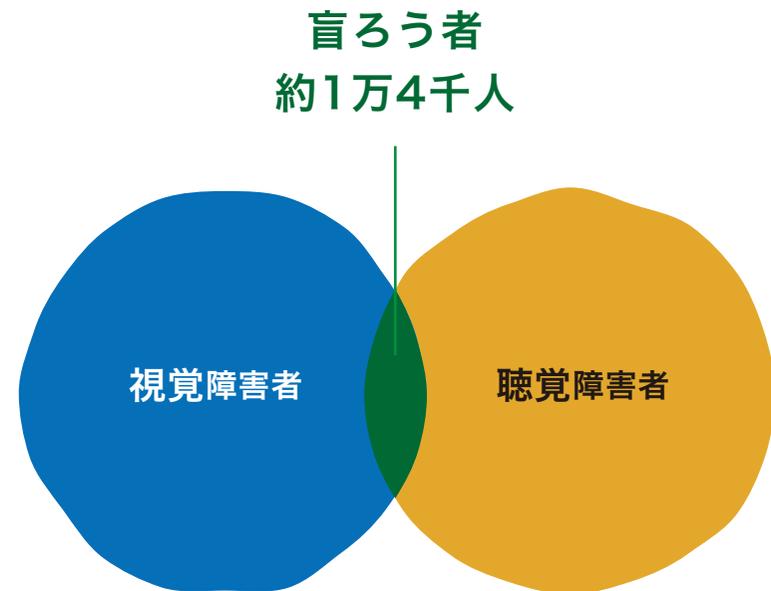
Who are the Deafblinds ?

盲ろう者とは

「目（視覚）と耳（聴覚）の両方に障害のある人」のことを盲ろう者といいます。

盲ろう者は日本全国に1万4千人程と推計されています。

盲ろう障害は、目と耳という人間の主要な2つの感覚機能に障害があるため、情報入手・コミュニケーション・移動など、様々な場面で困難が生じます。したがって、従来の「視覚障害」や「聴覚障害」といった単一障害に対する支援のみならず、「盲ろう」という障害の独自性に応じた支援が必要になります。



(平成24年度 盲ろう者に関する実態調査：社会福祉法人 全国盲ろう者協会)

盲ろう者の障害の状態・程度

「盲ろう者」と一口にいても、その障害の状態や程度は様々です。見え方と聴こえ方の組み合わせによって、**4つのタイプ**に大別されます。

- ① 全く見えず聴こえない 「全盲ろう」
- ② 見えにくく聴こえない 「弱視ろう」
- ③ 全く見えず聴こえにくい 「全盲難聴」
- ④ 見えにくく聴こえにくい 「弱視難聴」

	聴こえない	聴こえにくい
見えない	全盲ろう	全盲難聴
見えにくい	弱視ろう	弱視難聴

盲ろうになる経緯

盲ろう者になるまでの経緯も人によって様々です。障害の発症時期により **4つのタイプ**に大別されます。

- ① 先天的、あるいは乳幼児期に視覚と聴覚の障害を受障・・・「先天盲ろう（早期盲ろう）」
- ② 盲（視覚障害）となり、その後聴覚障害を受障・・・「盲ベースの盲ろう」
- ③ ろう（聴覚障害）となり、その後視覚障害を受障・・・「ろうベースの盲ろう」
- ④ 後天的に視覚と聴覚の障害を受障・・・「中途盲ろう（後期盲ろう）」

		聴覚 障害の受障時期	
		先天性	後天性
視覚 障害の受障時期	先天性	先天 (早期)	盲ベース
	後天性	ろう ベース	中途 (後期)

コミュニケーション方法

盲ろう者が使用するコミュニケーション方法は、盲ろうになるまでの経緯や、障害の状態により異なります。

		手話 <small>をもとに</small>	指文字 <small>をもとに</small>	点字 <small>をもとに</small>	文字 <small>をもとに</small>	音声 <small>をもとに</small>
使用する感覚	触る	触手話	日本語式指文字 ローマ字式指文字	指点字 点字筆記	手書き文字	
	見る	弱視手話			墨字筆記(筆談)	
	聞く					音声

触る

手書き文字

盲ろう者の手のひらに指先でひらがなやカタカナ、漢字などを書いて言葉を伝える方法です。盲ろう者の指をとり、机や手のひらの上に一字ずつ書いていくという方法もあります。多くの盲ろう者は手書き文字によってコミュニケーションをとることができます。



触手話 (触読手話)

話し手が手話を表し、盲ろう者がその手に触れて伝える方法です。この方法が難しい盲ろう者の場合、話し手が盲ろう者の手指を持って、手話の単語に形作っていく方法もあります。



指点字

盲ろう者の指を点字タイプライターの6つのキーに見立てて、左右の人差し指から薬指までの6指に直接打つ方法です。



点字筆記

点字の触読が可能な盲ろう者は、点字を読み取ることでコミュニケーションをとることがあります。「プリスタ」というドイツ製の速記用点字タイプライターで打ち出したり、コンピュータと接続した点字ディスプレイに出力する方法などがあります。



ローマ字式指文字

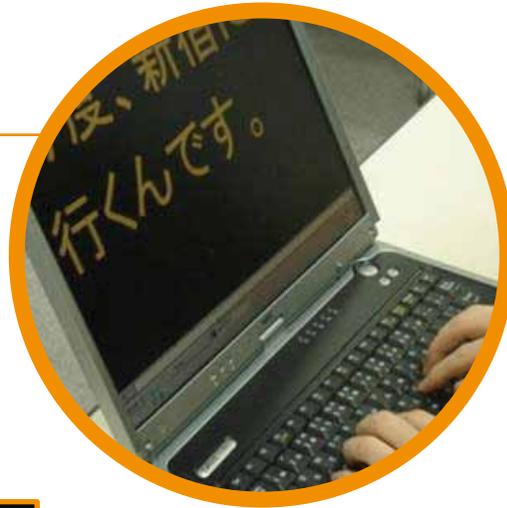
アメリカ式アルファベット指文字をローマ字表記で表し、盲ろう者がその手に触れて伝える方法です。手の動きが少なく、少ない数の文字で表現できる利点があります。ローマ字式の母音と子音の組み合わせは、点字の構成に共通する部分が多く、点字学習の導入として応用できることから、盲ろう児の教育に多く使われています。



見る

墨字筆記（筆談）

視覚活用が可能な盲ろう者に対して、筆記用具やパソコンを使って文字を伝える方法です。盲ろう者の見え方に合わせ、文字の太さや間隔、大きさなどを変える必要があります。



弱視手話

「視力が低下している」「視野が狭い」といった視覚障害の状態に合わせ、話し手との距離や手を動かす幅を調整することによって、手話を目で読み取る方法です。まぶしさを強く感じる見え方の人の場合、照明や陽光などの光源の位置・方向または服装や背景に配慮する必要があります。



聴く

音声

聴覚活用が可能な全盲難聴や弱視難聴の盲ろう者に対して、耳元や補聴器のマイクなどに向かって話す方法です。盲ろう者の聴力や聴こえの状態により、音量や声の抑揚、速さなどに配慮する必要があります。



触る・見る

日本語式指文字

聴覚障害者の間で広く使われている日本語式指文字を、盲ろう者は残った視力で見たり触れたりすることで読み取ります。日本語式指文字だけを用いて通訳を受ける盲ろう者もいますが、手話と一緒に補助的に使われることがほとんどです。



活動に参加するうえでの配慮

盲ろう者は、視聴覚の重複障害ゆえに、集団的な活動から取り残され、孤立しがちになります。しかし、配慮や工夫をすることで、周囲から取り残されることなく、自分でできることも増え、会話や活動を楽しむことができるようになります。

盲ろう者が
活動中に困ること

who
what
where
how

1. 誰が話しているか
2. 誰がいるか
3. 周りが何をしているか
4. 周りに何があるか
5. 自分がどこにいるか
6. どのように活動するか

進行
についての
配慮

1. 手順や流れについての見通しを示す
完成品と、作る過程の見本があると
分かりやすくなります。
2. 確認する時間をとる
説明をする際、1つ1つの工程で触って
確認する時間を十分にとりましょう。



※ 1人分をトレーにのせた写真



環境についての
配慮

1. 机上の本人のスペースを明確にする
1人分をトレーにのせることで、自分のものとして区別がしやすくなります。
2. 本人が座る位置を固定する
座席の位置を固定すると、どこにいるかが分かり、移動しやすくなります。
3. 動線にものを置かない
移動する経路にものを置くと、ぶつかったり、つまづいたりします。
4. 本人が使っているものを動かさない
本人が置いたものを勝手に動かすと、どこにあるか分からなくなります。

1. 名前を伝えてから話す
話者が分かることで、話の内容を把握しながら、
聞くことができます。
(例)「〇〇です。」「スタッフの〇〇です。」
2. 周りの状況を伝える
その場に誰がいるか、何をしているかなどが把握
できると、グループに参加しやすくなります。
(例)「スタッフのAさん、Bさん、利用者のCさん、
Dさんがいます。」
「Cさんはもうすぐ作業が終わりそうです。」
3. ほかの人が話している内容を伝える
発言者と発言内容を伝えると、周囲の人と交流しやすくなります。
(例)「Cさん『今日のお昼は何だろうなあ』」

コミュニケーション
についての
配慮



利用できるサービス

日常生活に役立つ用具

時計

自分で時刻を把握できると、先の見通しが立ち、主体的に行動しやすくなります。



蓋を開け、短針と長針、文字盤の目盛りを指で触って時刻を確認します。



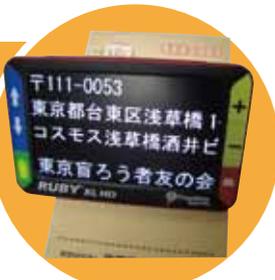
側面の3つのボタンを押し、振動の数を数えることで時刻を知ることができます。



はっきりとしたコントラストで弱視の方に見えやすい時計です。

拡大読書器

新聞や手紙のあて先などを拡大して表示します。
色の設定を変えられる機能（黒背景・白文字など）もあります。



携帯用信号装置

音声がかえなくても、振動で呼び出しが分かる双方向型の呼出器です。

コードレススピーカー

聞き取りにくいテレビの音声が耳元ではっきり聞こえます。



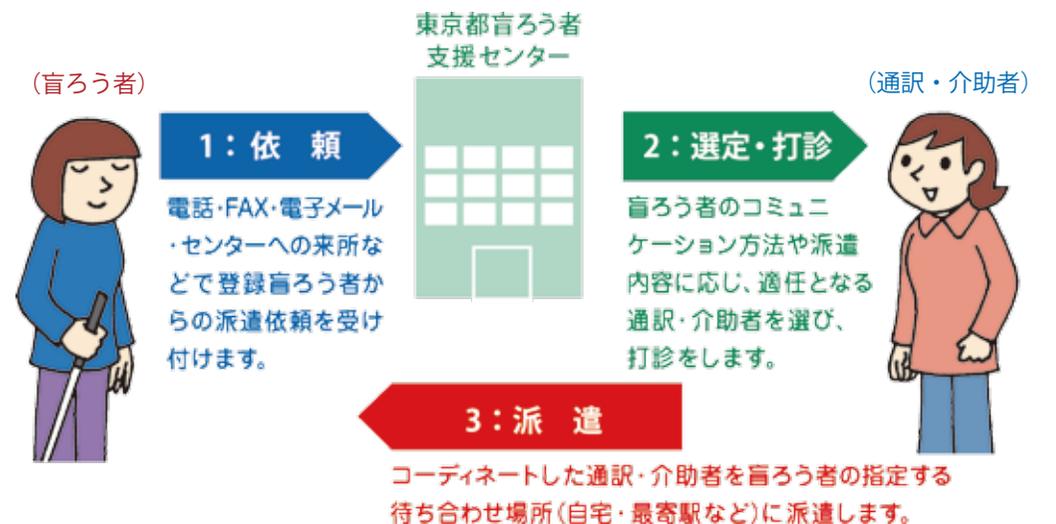
※ 時計、拡大読書器、携帯用信号装置は、視覚障害、聴覚障害の日常生活用具給付の対象になっています。お近くの区市町村にお問い合わせください。

通訳・介助者派遣事業

視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者に、移動とコミュニケーションをサポートする制度が「通訳・介助者派遣事業」です。
たとえば、「自宅と通所施設の間の送迎」、「活動中の周囲の状況についての情報提供」、「職員やほかの利用者とのコミュニケーションの支援」などに活用できます。
そのほか、通院や役所での手続き、普段の買い物など、様々な場面でも利用できます。



- ◆ 対象者： 都内在住で、視覚と聴覚の両方の障害が身体障害者手帳に記載されている方。
- ◆ 費用： 無料
(ただし、外出に必要な交通費は、通訳・介助者の分も含めて利用者の負担となります。)
- ◆ 登録： 東京都盲ろう者支援センターにご連絡ください。
職員が登録を希望される盲ろう者と面談をし、派遣事業の利用方法などについてご説明いたします。



東京都盲ろう者支援センターとは

「コミュニケーション方法を身につけたい」、「身の回りのことが自分でできるようになりたい」、「話し合える仲間がほしい」、「困っていることを相談したい」。このような思いにお応えします。

相談

盲ろう者やその家族、支援者、関係機関に、情報提供や問題解決の支援をします。



訓練

盲ろう者の自立を目的とした様々な訓練を個別に提供します。



生活訓練



パソコン訓練

交流・学習

盲ろう者が楽しんで時間を過ごせるように、学習会や交流会を開催します。



コミュニケーション訓練



学習会：ウォーキング



交流会：ミニ講演会



交流会：クリスマス会



学習会：調理

人材養成

通訳・介助者の養成、相談や訓練などの支援・指導にあたる人材の育成をします。



通訳・介助者養成講習会

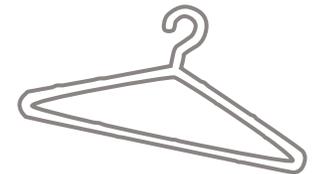
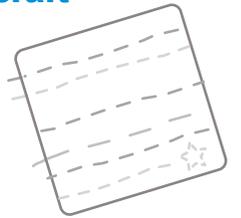
Activity for the Deafblind

盲ろう者の アクティビティ

創作活動

Art and Handicraft

- 18 石けん
- 22 ふきん
- 26 もこもこハンガー
- 30 コルク細工
- 34 和紙はがき
- 38 布ぞうり
- 42 革の手帳ケース
- 46 手織り



生産活動

Light Work

- 50 箱折り
- 54 裂き布
- 58 エンボス加工
- 62 包装
- 66 手紙封入
- 70 封筒
- 74 木製クリップ
- 78 点字名刺



レクリエーション

Recreation

- 82 カラダほぐし体操
- 86 アロマ&てもみ
- 90 バランスボール
- 94 じゃんけんゲーム

